

メディアとしてのインターネットの特徴と可能性

1. 相互接続

インターネットの特徴をパソコン通信との比較で簡単に説明してみよう。図1に示すように、パソコン通信はそれぞれが独立しているため、通信相手が異なるパソコン通信の利用者である場合、通信相手のパソコン通信の利用者となるか、誰かに中継を頼む必要がある。また、会議室やフォーラムといった場も各々で異なっており、誰かが変換して中継しない限り、閉鎖された場となっている。

インターネットでは、相互につながっていることが基本原則なので、パソコン通信のようなことはない。契約するプロバイダーが異なっても、相互に通信できる。また、会議室やフォーラムに相当するNetNewsやメーリングリストは、インターネット中で共通であり、プロバイダー間に障壁はない。

2. シームレス

既存のメディアの多くは、それぞれが競争してはいるが、それらの間には溝があり、利用者を囲い込む。インターネットは、利用者主導の立場で開発された技術を持って各々の提供者がサービスを展開するため、利用者が各々のサービスの間を渡り歩くことが容易である。たとえば、インターネットを代表する技術であるWWWはどこかの会社の所有物ではない。提供者が共通のプラットフォームとしてWWWを使う故に、利用者は自由にインターネット中を渡り歩ける。

国境がないことは多くの人々が認識するが、社会の色々な分野における情報流通の障壁を作らないこともインターネットの特徴である。

3. 利用者主導

パソコン通信のようなシステムは、中央に巨大なシステムを用意する集中型であり、その変更を利用者が行なうことは難しい。一方、インターネットは、データを運ぶだけの単純な機能しか持っていない。多くの処理は、利用者の手元にあるコンピュータのプログラムが行う。したがって、新しい機能を導入したければ、自分のコンピュータのプログラムを変更すればよい。つまり、利用者がその要求に応じて機能を変えていくことができる。あるいは、インターネットの規格はプロバイダーから独立して決められ公表されているので、プロバイダーとは別の第三者がプログラムを利用者に提供することが容易であるといえる。

4. 双方向性

インターネットは電話と同じように双方向で話すことができる。したがって宣伝など、これまで主に単方向の機能しか使わなかったものでも、この双方向機能を活用すると、利用者の要求の傾向を知ることができる。逆に利用者から見れば、この機能を積極的に利用して、利用者の要求を提供者へ伝える機会にできる。

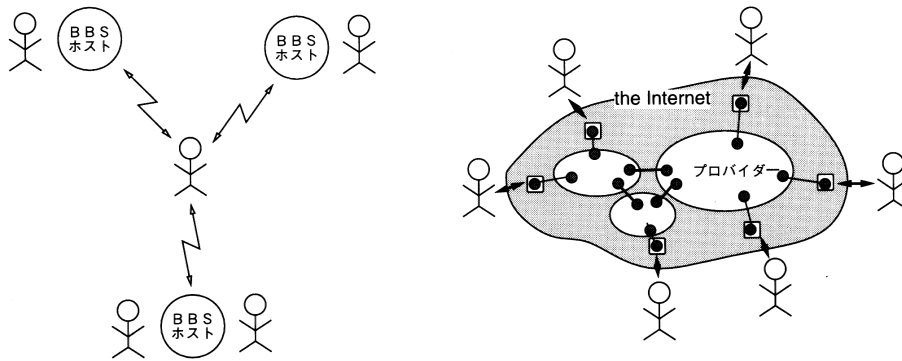


図1 BBS (左) とインターネット (右) の比較

5. オンデマンド型

電子メールに代表されるインターネットの機能は、非同期的で蓄積型である。電話のように相手があるときに不在でもよい。一方、WWWなどのオンデマンド型のメディアは、放送や新聞といった利用者が同時に同じ情報へアクセスする形態と根本的に異なる。日常われわれは、ダイレクトメールなどのさまざまな情報を否応なしに受け取るが、WWWはわれわれが必要なときに必要な情報だけを取り出すことを可能にしてくれる。ムダな広告宣伝費を節約し、無駄な資源の消費を回避できるので、提供者および利用者双方にメリットがある。

6. 無政府的

インターネットは、しばしば無政府的だといわれてきた。その精神の根本は、USENETにある。USENETには、パソコン通信のような管理者（事業者）が存在しない。たとえばニュースグループは、参加者の投票によって決まる。投票によらず、誰でも作れる場所もある。

7. 技術による制約の排除

1つの例として放送を取り上げてみよう。インターネットでの放送は、マルチキャスト機能が使われる。この機能を使うと将来のインターネットTVは、そのスイッチをオンにし、その放送局の番組を選択している人に対してのみ情報が送られる。一方、電波を使う放送はその放送を見ている人がいなくても、電波を占有する。したがって電波は有限だから、誰でも放送できるようにはならない。

インターネットでは、技術によってこういう制約を排除する。放送を見ている人がいなければデータは流れ出して行かないので、誰にも迷惑をかけることはな

い。一般の放送はある程度の数の受信者が前提となるが、インターネットの放送は小人数から可能であり、つまり、誰でも放送を行う機会を得ることができる。双方向性を考えると、もはや会議と放送は同じように扱うことができ、実際、インターネットでの放送は、会議ツールを流用して行われている。

8. 情報フィルタリング

多くの情報がインターネットに載れば、情報の氾濫ともいえるが、デジタル化された情報は簡単に検索できる。検索できるようになっていない情報は誰も見向きもしないのである。世の中の情報がデジタル化されれば、加速する情報の氾濫をうまく乗り切ることができる。当然、雑誌や新聞が行ってきた情報の編集（フィルタリング）も、重要な役割を果たすだろう。

9. 手軽な情報発信

以前、インターネットでは多くの情報へアクセスできるので、情報を集めるために接続するという動機を持つことが多かった。しかし、近年のインターネットの発展は、容易に情報が発信できる点が魅力としてとらえられている場合が多い。これほど手軽に、世界中に対して情報発信ができるメディアがあるだろうか。

また、手軽であるということは、個人ですら大会社と肩を並べて情報の発信ができるということを意味する。これは、インターネットの課金体系に距離の概念はなく、お隣りと通信しようと、海外と通信しようと、同一料金である点にも強く依存している。

10. 世界的規模

インターネットは世界的規模のネットワークである。この上に載った情報は、そのまま世界的なものとなる。全部が直接的につながっていて、そこには階層もない。世界的な、誰の所有物でもない、単一のメディアである。インターネットは、われわれに、新しい社会の可能性を示唆している。

(平原正樹)



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp